

教科等研究会（小・中学校書写部会）

平成30年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

自分の書いた文字が好きになり、書くことに意欲が持てる書写指導の在り方
～自ら気づき、高められる実践を求めて～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
6 / 14	年間計画	益城中央小	7 / 30	実技研修 事前研	益城中央小	10 / 30	授業研 (吉永教諭)	広安小	2 / 19	実践 報告会	益城中央小

3 研究の概要

(1) 研究の内容

本年度、さらに研究を進めていくために、昨年度と同様にテーマを引き続き同じものとした。

「書いた文字が好きになり」とは、学習課題を明確化し、ポイントをつかんだ練習をすることで、児童生徒がその時間の課題を達成し、文字が上達していく。その達成感により、それぞれが自分の書いた文字に自信が持てるようになることと考える。（「分かる・できる」）そして、その自信が「書くことに意欲が持てる」ことにつながっていくと考える。（「楽しい」）

「自ら気づき」とは、試書→練習→清書→評価という学習活動の中で、試書と手本の文字を比較し、学習課題を達成するためにはどのような改善が必要かを自ら考えることであり、「高められる」とは、児童生徒が自分自身の課題も意識して練習し、より良い文字となるような作品作りに取り組むとともに、書写の学習で学んだことを日常の文字に活かしていくことだと考える。

研究授業は、小学校と中学校が毎年交互に担当し、相互の立場から意見交換する形で研究を進めている。しかし、小・中学校では、ねらいや授業内容がそれぞれ異なるため、1回の授業研究会では実践力の向上を図ることが難しい。そこで、年度末に、一人一人の授業実践を発表し意見交換を行う実践報告会を計画している。会の中では、多くの実践例を持ち寄ることで、小中学校の連携を図るとともに、書写の楽しさを味わわせる活動の工夫や技術を高めるための指導方法を会員どうしで共有できると思われる。

(2) 成果と課題

本年度の授業研究会は小学校が担当し、1年生の「おれ」「まがり」「そり」であった。本授業では、漢字の「折れ」「曲がり」「反り」の書き方を理解し、正しく書くことができることをねらいとした。

授業の導入では、教師が「おれ」と「まがり」をまちがったひらがな・漢字・かたかなを書いて見せ、それを指摘させることで違いに気づかせ、学習への意欲をもたせることができていた。

「おれ」と「まがり」のそれぞれの形や書き方の特徴を確かめる活動では、「おれ」はかくっとなっているなど擬音語が使われていて、児童にも分かりやすく効果的だった。また、「おれ」と「まがり」の違いを児童にとって分かりやすい合言葉にして言わせたことで、それぞれの送筆のリズムをつかませるようになり、その後の各自の練習でも意識しながら集中して書いていた。

課題としては、導入時に書いて見せたひらがな・漢字・かたかなの数が多く、その後の学習活動の時間が短くなってしまっていたため、文字数をもう少し絞り込んだ方がよかったという意見があった。また、時間が足りなくなってしまうため、評価の時間が十分にとることができなかったのが残念であったという意見もあった。試書との比較を自己評価させたり相互評価させたりすることで、自分の上達をより実感することができたのではないかと考える。

4 実践事例

(1) 授業の概要

《授業者自評》

- ・時間配分がよくなかった。導入に時間をかけすぎた。
- ・評価の時間を十分に取れ、児童によくできたという達成感をもっと味わせたかった。
- ・学習活動が多すぎたため、もっと絞り込む必要があった。

- ・どの子どもも集中して取り組むことができているように思う。日頃、文字に対して苦手意識を持っている子どもも意欲的に取り組むことができているよかった。

《研究協議の内容》

- ・導入時の書いてみせる文字をもっと絞り込んだ方がよかった。例えば、「か」と「カ」や折れと曲がりのどちらも出てくる「四」や「九」だけでもよかったのではないかなと思う。
- ・擬音語が効果的に使われていてよかった。1年生の児童にもイメージしやすかったと思う。
- ・評価の際、本時のポイントをもう一度確認すると、児童もどこがよくなったのかをより実感することができたのではないかなと思う。

(2) 学習指導案

第1学年4組 国語科(書写) 学習指導案

平成30年10月30日(火) 第5校時

指導者 教諭 吉永 郁子

1 単元名 「おれ」「まがり」「そり」(東京書籍P22~23)

2 単元について

- (1) 本単元では、ひらがなの学習をふり返りながら、漢字と片仮名の「折れ」「曲がり」「そり」について取り上げて指導する。

片仮名の書き方の指導は、本教材が初めてである。国語では片仮名の学習がほぼ完了している時期であり、関連させて指導していくようにする。片仮名の筆使いは、基本的に漢字と同じと考える。点画が少なく字形が簡略化されている分、画の長さや方向の指導が重要である。

片仮名については小学二年生までの二年間で指導を完了するようになっている。一通り指導が完了する一年生で、それぞれの概形だけでなく、「折れ」「曲がり」「そり」の送筆の違いや方向について学習しておくことは、片仮名の確実な習得につながると考える。

- (2) 本単元に関わる学習の系統は次の通りである。

<p>1学期 ひらがなの「まがり」と「おれ・おりかえし」の書き方を理解し、正しく書く。</p>	<p>2学期(本単元) 漢字の「折れ」「曲がり」「反り」の書き方を理解し、正しく書く。</p>	<p>3学期 「ひらがなのとかん字の書き方」既習の文字の点画・筆使いをまとめ、正しく書く。</p>
---	---	---

- (3) 本単元における児童(男子13名、女子13名、計26名)の実態は次の通りである。

(平成30年10月25日調査 25名)

項目	人数(人)
1 字を書くことについて	○とても好き 20名 ○好き 1名 ○嫌い 2名 ○とても嫌い 2名
2 ひらがなの習熟について	○完全に覚えた 15名 ○大体覚えた 2名 ○まだ自信がない 8名
3 ひらがな、片仮名、漢字を書くことについて	<p>ひらがな ○とても好き 16名 ○好き 2名 ○苦手 5名 ○とても苦手 3名</p> <p>片仮名 ○とても好き・好き 18名 ○苦手・とても苦手 7名</p> <p>漢字 ○とても好き・好き 12名 ○苦手・とても苦手 13名</p>
4 字を書けることは自分の役に立つと思うか	○とても役に立つ・まあまあ役に立つ 16名 ○あまり役に立たない・全然役に立たない 10名
5 書写の学習をして、どんな自分になりたいか(自由記述)	<p>○字を覚えて、すらすら書いたり読んだりできるようになりたい。</p> <p>○きれいな字が書けるようになって、はなまるをたくさんもらいたい。</p> <p>○もっとカッコいい字を書けるようになりたい。</p> <p>○片仮名の練習をがんばって、覚えたい。</p> <p>○漢字をいっぱい覚えたい。めっちゃおぼえたい。</p> <p>○大人になっても書けなかったら困る。</p>

- ◇ 文字の学習に大変意欲的に取り組み、有用感が強くもっている児童が多い。その一方で、文字の学習に苦手意識がとても強く、習得が難しい児童も数名いる。その児童は筆記具の持ち方や姿勢だけでなく、字形の整え方や終筆(止め、はね、払い)と送筆(折れ、反り、曲がり)についてもたどたどしいところがあり、なかなか意欲を持ってない。

(4) 研究との関連

既習のひらがな、片仮名、漢字の中から「おれ」「まがり」をともに含む漢字である「四」「九」、ひらがなと片仮名では送筆が異なる「か」と「カ」を特に題材とし、学習課題を明確化し、児童がポイントをつかんで練習できるようにしたい。その際、事前に取り組みさせた試書の文字から、自分の文字の課題を児童自身がつかんで本時の学習に臨めるように、思考したり練習したりする時間を十分確保に努めたい。

送筆を練習する際、送筆のポイントを擬態語や児童のつぶやきをもとにした、一年生の児童にとってわかりやすいものにする事で、日常生活の中で文字を書く際にもつぶやきながら書いていけるようにし、学んだことの日常化を図る。

評価について、本時の課題に対する自己評価・相互評価を行い、試書→練習→清書の過程での自分の文字の上達や成長と、本時の課題の達成具合を実感させることで、自分の書いた文字に自信をもち、今後も意欲をもって文字を書くことや文字の学習に取り組んでいくと考える。

(5) 指導に当たっては、次の事項に留意する。

- 教師が「まがり」と「折れ・折り返し」をわざと間違えて書いてみせることで、本時の課題である「おれ」「まがり」の違いに気づかせ、意欲を高める。
- 「おれ」と「まがり」の違いを明確にするため、「おれ」は一度止める、「まがり」は止めずにゆっくり曲がることを、自動車の模型でやってみせたり、指でのなぞり書きをくり返させたりして、違いを確実につかませるようにする。
- 「おれ」は一度止める、「まがり」は止めずにゆっくり曲がることのできたら本時の目標は達成というように、ポイントをしぼり込み、児童が見通しを持って「おれ」と「まがり」の違いを学習できるようにする。
- 児童のことばによるまとめ、試書と比較しながらの自己評価や相互評価を行い、児童が達成感を味わえるようにする。

3 単元の目標

- ◎漢字の「折れ」「曲がり」「反り」の書き方を理解し、正しく書くことができる。
- ◎片仮名の「折れ」と「曲がり」に注意して書くことができる。

4 指導計画及び評価基準（3時間取り扱い）

時	学習活動	関	読	書	画	評価基準及び評価方法
1 本時	○漢字、片仮名の「おれ」「まがり」の形や書き方の違いを理解し、正しく書く。 ・「おれ」「曲がり」の形や書き方の違いを確かめる。 ・試書と比べ、自分の課題をつかんで練習する。 ・清書し、評価する。	○			○	<u>技能</u> （ノート・観察） 「おれ」は一度止め、「まがり」は止めずに曲げながら書いている。 漢字、片仮名の「おれ」「まがり」に注意して書こうとしている。
2	○漢字、片仮名の「おれ」「まがり」「そり」の形や書き方の違いを理解し、正しく書く。 ・「そり」と「おれ」「曲がり」の形や書き方の違いを確かめる。 ・試書と比べ、自分の課題をつかんで練習する。 ・清書し、評価する。	○			○	<u>技能</u> （ノート・観察） 「そり」は止めずにそりながら書いている。 「おれ」「まがり」と比較しながら漢字の「そり」に注意して書こうとしている。
3	○漢字、片仮名の「おれ」「まがり」「そり」の形や書き方の違いを理解し、正しく書く。 ・「おれ」「曲がり」「そり」の形や書き方の違いを確かめる。 ・試書と比べ、自分の課題をつかんで練習する。 ・清書し、評価する。	○			○	<u>技能</u> （ノート・観察） 「おれ」「まがり」「そり」の形や書き方の違いを理解し、正しく書いている。 「おれ」「まがり」「そり」に注意して書こうとしている。

5 本時の学習（3時間取り扱い 本時1／3）

(1) 目標

漢字の「折れ」「曲がり」の違いと書き方を理解し、正しく書くことができる。

(2) 本時の展開

過程	時間	学 習 活 動	指導上の留意点・評価	備考
導入	6	1 既習のひらがな・漢字・カタカナで「おれ」と「まがり」の違いを確かめる。	○教師が「おれ」と「まがり」をまちがったひらがな・漢字・カタカナを書いて見せ、それを指摘させることで違いに気づかせ、学習への意欲をもたせる。	
	2	2 本時の学習のめあてを確認する。		
めあて 「おれ」と「まがり」のちがいにきをつけてかこう				
展開	3	3 「おれ」と「まがり」のそれぞれの形や書き方の特徴を確かめる。 ・「おれ」はカクってなってる。 ・「まがり」はまるくなってる。 ・「おれ」はとんがってる。	○ひらがなにも漢字にもカタカナにも「おれ」や「まがり」があり、書き方は共通していることをおさえる。	既習のひらがな、漢字、カタカナのカード
	7	4 「おれ」と「まがり」の書き方をおさえる。 ・「まがり」は止まらずすーって書いたけど、「とめ」はかくっかくって止まった。	○「おれ」は一度止める、「まがり」は止めずに曲がることを、 ①自動車の模型を使って、 ②指でのなぞり書きでつかませる。 ○書き方の違いを、児童にとって分かりやすい合言葉にして、言わせながら、「おれ」と「まがり」の送筆のリズムをつかませる。	自動車の模型
	22	5 「おれ」と「まがり」の練習をする。 6 清書をする。	○「おれ」と「まがり」の送筆のリズムをつぶやかせながら書かせる。	試書シート フェルトペン ノート
まとめ	5	7 本時のまとめとふりかえりをする。		
まとめ 「おれ」はカクっと一度とめる、「まがり」はとめずにまるくまげる。				
		・カクツとならずにまるくできたよ。（自己評価） ・まえはとまってないみたいだけど、きょうはカクツととめてかいてるね。（相互評価）	◆技能（ノート、観察） B 基準 「おれ」は一度止め、「まがり」は止めずに曲げながら書いている。	

◇人権教育の視点：ふり返りの中で、お互いの伸びや頑張りを相互に言葉で伝え合う活動を設定する。